



<特集> 鹿嶋市

鹿嶋神宮門前町の再生をめざしたまちづくり

- ・「第22回すまい・まちづくり設計競技」の概要
- ・設計競技入賞者による発表会
- ・鹿嶋神宮門前町の再生を考える集い

すまい・まちづくり設計競技

本設計競技は、毎年6月の「まちづくり月間」行事の一環として、まちづくり実行委員会及び住宅生産振興財団の主催及び国土交通省外関係機関の後援で、全国1箇所から課題地を選び、まちづくりに関する提案を全国公募する設計競技です。平成16年度は、第22回目となり、「わたしの街の都市再生」というテーマで課題地の募集があり、鹿嶋神宮門前町9.18ヘクタールが選ばれて、「鹿嶋神宮門前町の再生をめざしたまちづくり」というテーマで、実施されました。

テーマについて

鹿嶋神宮は神代たけみかづちのかみの昔にさかのぼりますと、日本の国を平定した武甕槌神が祭られ、悠久の歴史を持つ常陸国一の宮です。

その門前町として商業の中心地となり栄えていたかつての街並みも、近年にいたっては周辺地区の開発や幹線道路の整備等により郊外に進出した大型店に消費者が流出し、住宅と店舗が混在したまま衰退しつつあります。しかし、その門前町に鹿嶋神宮の神官や氏子として先祖代々住み続け、鹿嶋神宮を中心とした地域コミュニティを形成して来た地域住民は、衰退しつつあるこの地域の活性化とまちの再生を望んできました。

これからのまちはノーマライゼーションを意識し、誰にも優しい街づくりが求められます。鹿嶋市では、まちづくりの基本コンセプトとして「市民・事業者・行政の協働によるまちづくり」を考えています。この地域でも門前町の住民が参加、協力して生活環境の整備と地域経済の活性化を図り、門前町を「賑わいのある安心、快適なまち」として再生できることを目指しています。これを考慮に入れた上で、本設計競技においては、住まい・店舗・駐車場を再配置する方策を用いて、鹿嶋神宮を中心とした“まちの活性化のための再生計画”のアイデア提案を求めました。

・特選 藤田倅宏 ほか4名の作品



・準特選 二瓶正史氏ほか5名作品





課題地の概要

課題地は、国道 51 号と県道鹿島神宮線に挟まれた鹿島神宮の西側に位置しており、鹿島台地の一部で北側は斜面となっています。行政区は大町、仲町のほぼ全域と桜町、角内の一部です。この地区は鹿島神宮の御神幸という祭りの山車を所有している 5 ケ町内の 4 地区であり、鹿島神宮の祭りを通して地区内外の住民関係は円滑です。

課題地内は住宅と店舗が混在し、その中には廃業した店舗や空き店舗もあります。建物の構造はほとんどが木造です。居住人口は約 150 世帯、約 500 人、65 歳以上の高齢者が約 200 人です。

設計条件

1. 鹿島神宮を意識した景観形成の提案
2. 従前の住宅戸数を維持しながら、住宅、店舗駐車場の再配置を計画すること
3. 賑わい空間及び出会い・ふれあいを求めるような街並みの提案
4. 店舗と住宅の設計
5. この地域の活性化が見込まれるような駐車場の配置及び運営の提案

応募状況

- 1 応募登録 126 件
- 2 提出作品 34 件
(そのうち、茨城県：6 件、うち鹿嶋市：4 件)
(職業別は、公務員：5 件、建設会社：5 件、設計事務所：6 件、学生：16 件、学校関係：2 件)

審査結果

- ・特選（国土交通大臣賞）賞金：100 万円
(株) 藤田環境計画(東京都 / 設計事務所)
(代) 藤田倣宏 ほか 4 名
- ・準特選（まちづくり実行委員会会長賞）
賞金：20 万円
(有) アーバンセクション(東京都 / 設計事務所)
(代) 二瓶正史ほか 5 名
- ・入選（住宅生産振興財団賞）賞金：10 万円
日本大学生産工学部建築工学科川岸研究室
川岸梅和(千葉県 / 大学教員)ほか 5 名
- ・入選（住宅生産振興財団賞）賞金：10 万円
東京農業大学地域環境科学部造園科学科
金成真由子(東京都 / 大学生)ほか 5 名

作品展示会によるアンケート

全国から公募された「すまい・まちづくり設計競技」の 34 作品を、主催者から借用し、鹿島商工会館にて展示会を行い、見学者からアンケートを回収した。

- ・回答数：鹿嶋市在住 40 名回答(全体 53 名回答)
- ・アンケート内容

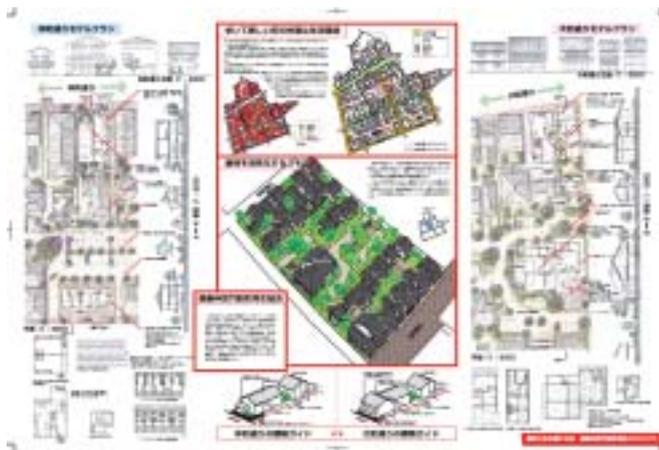
門前町の再生の必要性について

必要：38 名、このまま：1 名、その他：1 名

門前町の再生をどう行うかについて

市民・事業者・行政が協働行う：27 名

まちづくり組織で行う：11 名、その他：2 名



- ・入選 川岸梅和氏ほか 8 名の作品



- ・作品展示会風景





設計競技入賞者による発表会

設計競技入賞者4団体の代表者を鹿嶋市に招いて、作品についての発表会を開催。入賞者から鹿嶋神宮の歴史についても調査、研究された内容と、鹿嶋神宮と森を取り込んだ一体となった計画についてそれぞれの視点で趣旨が発表され、ひとつのまちづくりの方向性が示されたという意見もあり、作品展示会で見ていただいた内容も含めて、門前町のまちづくりの意識を高めることができた。

鹿嶋神宮門前町を考える集い

市民・事業者・行政の協働による門前町の再生を目指したまちづくりに向けて、茨城大学地域総合研究所所長で今回の設計競技の審査委員も務めました齋藤義則茨城大学教授をコーディネーターに迎え、またパネリストとして鹿嶋市長、鹿嶋商工会会長、鹿嶋神宮代表役員宮司、鹿嶋観光協会理事、鹿嶋神宮門前町若手代表及び入賞者の方が出席し、一般参加者からも発言ができるシンポジウムを開催。

これからのまちづくりは、市民が主体となって進めることが大切で、長期的な目標設定については、共有できるような方針を策定することが必要であり、市民・事業者(商業者)・行政が対等な立場で進めることが重要であることや鹿嶋市としての財産でもある鹿嶋神宮とその門前町の再生については、ワークショップや協議会で議論を重ね、それによってみんなに受け入れられる施策づくりを進めていくことの方向性が話された。

門前町は密集市街地化しており、火災等に弱く、この地区の再生のキーワードのひとつに防災の街づくりがあり、今回の設計競技のいくつかの案では緑が多く住居を囲い護っており、その点では安心、安全な街づくりが考えられている。また、課題としてあげられた駐車場については、空地を観光協会、商工会で借りて、商店側負担で、誰でも使える駐車場にすることで、個人や店舗の駐車場になっているところに、新しい利用形態での共有の駐車場であることも話された。

今後のまちづくり

市としては、鹿嶋神宮の歴史的背景とそこに住む人々のまちづくりに対する考え方との融合を図りながら、まちづくりに取り組みたいと考えております。

鹿嶋市では、この設計競技のあとをうけて「全国都市再生モデル調査」という国の補助事業に「鹿嶋神宮門前町の再生から鹿嶋の未来を展望する」というテーマで応募し、事業が採択になりました。

まちづくりは市民の理解があって実現可能なものであります。その点では、この地区の居住者の権利と事業者(商業者)の権利と市がもつ行政の権利を一体化する話し合いができれば可能であると考えています。

今回の都市再生モデル調査の結果から、都市再生整備計画を起し、まちづくり交付金制度を活用して行きたいと考えています。

・入選 金成真由子氏ほか5名の作品



・設計競技入賞者による発表会



・鹿嶋神宮門前町の再生を考える集い

